

北 潟 湖

発行：北潟湖の自然再生に関する協議会

事務局：あわら市市民生活部生活環境課
TEL:0776-73-8018
E: seikatsu@city.awara.lg.jp

ニュースの内容

第4回 北潟湖フォーラム特集

第4回北潟湖フォーラム

～北潟湖のめぐみを感じよう！～

北潟湖とその周辺地域は貴重な生物が多く生息し、古くから漁業や農業が行われてきました。また、昔の資源の豊かさをのびのびとした生活文化を形成し、湖の恵みは地域を豊かにしてきました。しかしながら、時代の移り変わりとともに自然環境は変化しており、資源に向けて水質や生物などの保全を科学的な知見に基づいて長期的に取り組むことが必要です。

北潟湖の自然再生に関する協議会では、北潟湖とその周辺地域の豊かな自然環境の実態を把握し、今後の保全についての取り組みをすすめてまいります。

北潟湖の自然が自分たちにとってのめぐみを感じていただくことを目指して取り組んでいくため、北潟湖フォーラムを開催します。皆さまのご参加をお待ちしております。

開催日 平成30年3月3日(土)

開催時間 午前10時から午後3時45分まで

開催場所 北潟公民館
(あわら市北湖150-1 TEL 0776-79-1100)

主催：北潟湖の自然再生に関する協議会/あわら市
協賛：福井県

寒ブナ地引き網体験



自然のめぐみ・食体験



午前の部

【地引網体験】10:00～11:30 《雨天決行》

- 体験会場 北潟湖心(大川)周辺
- 集合場所 北潟公民館駐車場(伊勢会館へは、バスにて送迎します)
- 定員 30人 ● 参加費 無料
- 申込方法 あわら市市民生活部 生活環境課まで、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます。(TEL) 0776-73-8017 (FAX) 0776-73-1350 (E-mail) seikatsu@city.awara.lg.jp



- 準備物 長靴、ゴム手袋、カッパ上下、タオル、飲み物、防寒具など

午後の部

【自然のめぐみ・食体験】12:00～13:15

- ①寒甜さばき実演・寒刺身の試食
- ②郷土魚料理(甘露煮)
- ③シジミ汁
- ④小女子へしこ
- ⑤富津金時(さつまいも)焼き芋
※昼食に「おにぎり」を用意します。



【講演・活動報告会】13:15～15:45

＜講演会(30分)＞

演題：「自然再生と地域活性について」
講師：福井県里山海湖研究所 研究員 宮本 康氏

＜報告会(30分)＞

①報告内容：「子どもたちから見た北潟湖」
(北潟湖・学校・6年生、あわらの自然を愛する会、県里山海湖研究所)

＜休憩＞

＜活動報告(60分)＞

- ①「北潟湖の魚類相と漁業/水産資源」(北潟湖漁業・県立大学)
- ②「北潟湖の生物多様性を守る上での谷津の価値
～鳥類と水生昆虫の視点から～」(県自然保護センター・日本野鳥の会福井県)
- ③「県立大学学生実習報告」(県里山海湖研究所)
- ④「参加者が望む北潟湖の環境イメージを探る」～ワークショップ中間報告～

～各展示コーナー～

- 「ふるさとあわらの自然再発見入選作品展」 ● 「北潟湖ワークショップパネル展」
- 「田んぼは魚のゆりかご」

見事な寒ブナさばき！前田輝久氏



美味しいね！初めて食べるね！



【自然のめぐみ・食体験】・寒ブナの刺身 ・寒ブナの甘露煮 ・メナダの刺身
・小女子のへしこ ・シジミ汁 ・富津金時

- 青海忠久会長：地域の方の思いを大切にしながら、科学者の目で未来の姿を探り、法定協議会設立に向けて、多くの方の参加と議論をよろしくお願いいたします。
- 佐々木康男市長：北潟湖は、重要湿地500に選定されており、全国に誇れる。特に四季の風物は素晴らしい。カヌーや乗馬などにも親しめる。北信越市長会が開催されるので、エクスカッションでも大いにPRしたい。

基調講演・研究報告

- 基調講演「自然再生と地域活性について」宮本 康氏：福井県里山海湖研究所 研究員
＜講演のキーワード＞ メモより



- ・地域で三方五湖のフナの再生に取り組んでいる。シュロ等に産卵させ、水田で稚魚を育て、湖へ返している。昨年は30kg(2万尾)
- ・五湖固有のDNAを持つフナは、水田に産卵遡上する傾向があるようだ。
- ・五湖のタタキ網漁は、400年の歴史があり、安土桃山時代からあったようだ。採れたフナやコイは刺身や煮つけなどに調理され、大変美味。
- ・コンクリート護岸はフナの遡上の障害となるが、防災上必要。生活と自然のバランスが難しい。



展示紹介

報告会：「子供たちから見た北潟湖」

北潟小学校5年生・6年生児童

あわらの自然を愛する会 会長 河田 勝治 氏
福井県里山里海湖研究所 研究員 石井 潤 氏



・赤尾にある湿地の観察会で、マコモを食べたことや浮島の不思議な体験、カヌーに乗っていて沈するとTシャツが茶色になったり、悪臭がしたりしたことを発表。
もっと多くの方に来てもらい知って欲しいとの想いやゴミなども減らしたいとの意見表明があり、先生方への質問では、水質浄化の方法などを教えて欲しいとの質問などがあつた。

② 「北潟湖の魚類相と漁業／水産資源」

富永 修 氏(福井県立大教授)

辻下 義雄 氏(北潟漁業協同組合長)

- ・平成28年にブルーギルの駆除を目的で調査を実施。
3月：海から塩水が湖底に流入。
5月：漁獲は、シロウオ、ハゼ、セイゴ(大きいサイズ)。
7月：塩分が高い
8月～11月：塩分が低くなる。・8月はセイゴが多い
- ・久々子湖では、浅場の存在や底質がヘドロでなく砂でない
とシジミが育たないことなどが分かる。
- ・北潟湖では、シジミを将来の漁業資源として検討中
- ・汽水湖は濁っている傾向にある。
- ・開田橋の水門プログラムが昨年の9月から、水位差1cmで閉じるようになったので、湖水の塩分濃度の変化に注目している。

<参加状況> 参加ありがとうございました。

- ・寒ブナ地引網体験 計35名
- ・フォーラム参加者 計148名
- 自然のめぐみ・食体験

② 「北潟湖の生物多様性を守る上での谷津の価値」

～ 鳥類と水生昆虫の視点から ～

福井県自然保護センター所長 松村 俊幸 氏

- ・北潟湖の生物多様性を守るには、湖だけでなく、県内有数の谷津地形に育まれた周辺の自然環境全体を含めて保全していく必要がある。
- ・鳥類調査の結果、「ノジコ」という環境省準絶滅危惧種の重要な渡りの中継地点になっている可能性が高まった。
- ・溜め池には、トンボの一種の「オグマサナエ」という県域絶滅危惧Ⅰ類が生息している。オグマサナエの絶滅を防ぐために、その存在を脅かしているウシガエルを継続的に駆除し、低密度に管理する手法を模索している。
- ・谷津の水田や放棄水田などを湛水させる取り組みが必要。

③ 「参加者が望む北潟湖の環境イメージを探る」

～ ワークショップ中間報告 ～

(株)BO-GA 代表取締役 関岡 裕明 氏

- 第1回WS：北潟公民館：出席者34名
・現在の北潟湖が抱える問題点について洗い出した。
水質の悪化、塩分濃度の管理、生物多様性の低下、外来種の蔓延市民の認知度が低い、内水面漁業の衰退など
- 第2回WS：芦原青年の家：出席者26名
・北潟湖の未来の姿や取り組むと良いことを集約した。
遊びたくなるような透明度、水門管理、活動人口を増やす、子供や市民の環境教育の場、産卵場整備、遊漁者の増加



〔法定協議会〕とは？

自然再生推進法に基づく自然再生協議会を「法定協議会」と呼びます。現在は、法に基づいた組織ではなく、任意の協議会なので「北潟湖の自然再生に関する協議会」と長い名称になっています。

■自然再生推進法とは：過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻すことを目的とした自然再生推進法が、平成15年1月1日より施行されています。この法律は、我が国の生物多様性の保全にとって重要な役割を担うものであり、地域の多様な主体の参加により、河川、湿原、干潟、藻場、里山、里地、森林、サンゴ礁などの自然環境を保全、再生、創出、又は維持管理することを求めています。

・基本方針は、5年に一度見直され、H26年には、「小さな自然再生の推進」が重要とされました。(環境省HPを参照)

■H29年度末で、全国では25の協議会が設立されています。

福井県では唯一、三方五湖自然再生協議会がH23年に発足

■法定協議会のメリットは：①いろいろな意見や協力が得られる。

②専門家や行政の協力が得られる。③活動を全国に向けて発信できる。④全国の先進地とのネットワークが持てる。

⑤新たなアイデア生まれる。など...